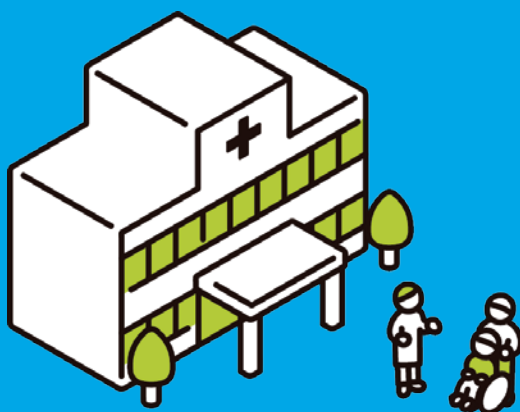


relation@

くすの木病院 地域連携だより「りれーしょん」



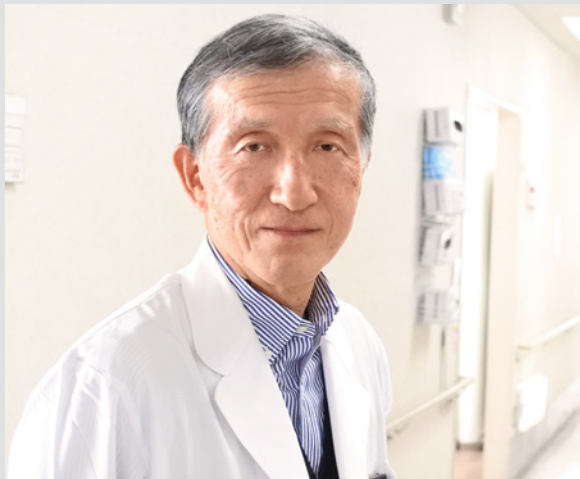
地域連携室

断らない医療の実践



断らない医療の実践

地域連携室では新体制による地域連携の強化と、スムーズな受け入れで迅速に対応し、断らない医療の実践を目指しています。



高木 均
病院長

HITOSHI TAKAGI

平素より連携頂いております皆様には、患者様の御紹介、画像依頼を始めとして大変お世話になっております。コロナも現在は大きな波（第9波）は来ていないにしてもクラスターや定点観測で患者数が微増しているなど予断を許さない状況が続いております。コロナ受け入れに関しては、令和3年7月より地域包括病床をコロナ用に改編し、令和5年3月までの21か月間で358名のコロナ患者を受け入れてきました。一か月平均17名、特に第7波、第8波の時は月当たり30名を超える入院を受け入れ、上限数を超えるときも有りました。この当時は東毛地区からの入院など県内当該医療地域外からの依頼もできるだけ引き受けたことで県からも感謝の意を表されました。5類に移行した本年5月以降入院数は激減していますが病床体制を元に戻しつつもいつでもコロナ患者への対応ができるよう準備は続けております。

そんな中、今回の連携だよりは“断らない医療”をテーマにお届けいたします。皆様御周知のとおり、くすの木病院はケアミックス型、すなわち急性期から慢性期までをカバーする病院を標榜しておりますが、全科常勤を備えた総合病院ではないため、一人当直医の専門性によっては、救急を断らざるを得ない場合もございます。昨年度の救急の受入れは70%弱を低迷しておりましたが、今年度になり75%を超

えてきており、出来るだけ引き受けようという意識が浸透してきました。さて、少子・高齢化社会に見合う医療体制の一部を担う身としては、100%の引き受けを目指しつつも専門外の場合無理はできないという考えともバランスをとらざるを得ず、計算上4件の依頼中3件を引き受けているのが現状です。慢性期医療体制も実際には急変する高齢者の救急患者の母体となっており、高齢慢性期患者を何でも救急救命センターにお願いするのは逆に救急医療が持たないとする声も聴きます。そういう意味でかかりつけ患者であればいかなる救急でも引き受けるべきであり時にはトリアージも重要になってきます。地域包括、回復期リハビリ、療養病棟への紹介受入れはほぼ100%を達成しておりますが、逆に長期入院患者の転所、転院が滞ることも有りこちらについても連携室、社会福祉士を中心にスムーズかつ手厚い手続きの促進に努めてまいります。日勤帯は基本的にはほぼ受け入れている状況ですが、その上で手に負えない場合には中核病院へお願いする場合もございます。救急医療に必要な画像・検査体制は十分に整っておりますので、今後も鋭意、断らない医療を継続、実践してまいります。

改めまして引き続きのご紹介、お引き立てのほどお願い申し上げます。ご挨拶と致します。

力をいれている分野 整形外科

orthopedic



年間手術件数
(整形外科)

項目	2019年	2020年	2021年	2022年
人工骨頭挿入	8	15	11	23
大腿骨ORIF	12	20	34	38
インプラント周囲骨折	0	1	1	3
TKA+THA (再置換術も含む)	0	7	8	17
上腕骨ORIF	1	3	3	3
橈骨ORIF	9	6	8	11
脛骨・腓骨ORIF	1	3	3	4

(単位：件)

整形外科診療部 海老原 吾郎

日本整形外科学会専門医、日本人工関節学会所属、東日本整形災害外科学会所属、日本骨折治療学会所属、関東整形災害外科学会所属

連携医療機関の先生方におかれましては、患者様のご紹介など平素より大変お世話になっております。おかげさまで手術実績は徐々に増加傾向であります。感染、インプラント周囲骨折、再置換、頻回脱臼などの難症例含め、今後も整形疾患や外傷につきましては、救急・紹介いずれも可能な限りお断りすることなく対応させていただきます。



レスパイト入院を受け入れています!!

対象の患者様が
いらっしゃいましたら
ご相談ください

患者様・介護者の休養目的や事情等により一時的に自宅での療養継続が困難となった場合、医療保険を利用して入院が可能です。(利用例：介護者の通院・入院時、冠婚葬祭や旅行。バリアフリー改修やベッド搬入など住宅環境の整備。)

ご利用対象者

- 退院後は自宅復帰が可能な方
- 症状が安定している方
- 医療処置（褥瘡処置、酸素吸入、痰吸入、経管栄養、気管切開、点滴等）が必要で介護保健施設等の利用が難しい方

ご挨拶



地域連携室 科長
看護師

はぎわら ちはる
萩原 千春

私がくすの木病院に着任し、早10ヶ月が過ぎようとしています。くすの木病院地域連携室では、前方・後方連携の充実を図り、職員一人ひとりが地域の医療機関としての役割を果たすべく日々努力しております。また、一般・地域包括ケア・回復期リハビリテーション・医療療養と4つの病棟機能を持つケアミックス病院として、柔軟な患者受け入れを行っています。地域の医療機関・介護施設からのご要望に添えるよう努めてまいりますので、今後ともよろしくお願い致します。

もっと伝えたい! 「医療相談員」

現在、当院では5名の医療相談員が日々患者様やご家族からのご相談を伺い、支援をしています。

入院された患者様の病室へ医療相談員が訪問し、入院に際し心配なことや不安なことがないかを伺っています。治療に専念できるよう、医療的・社会的な制度の活用方法のご提案や地域の社会資源のご紹介など、問題解決のための支援に努めています。内容に応じて該当部署との連携が必要なため、他部署との情報共有を欠かしません。

また、退院までスムーズに支援が行えるよう、介護保険の案内・施設案内・退院に向けた合同カンファレンス等を行っています。患者様が退院をして生活の場に戻られるに当たり、ご本人やご家族の思いを尊重し、納得していただけるように支援することを心がけています。

今後も地域の医療機関様や福祉施設等へご相談させていただく機会が多いと思いますが、よろしくお願ひいたします。

4階 一般病棟



社会福祉士
こばやし りょうた
小林 亮太

5階 一般病棟



社会福祉士
おおの hitomi
大野 仁美

3階 療養病棟



社会福祉士
ひらい えみ
平井 恵美

2階 回復期病棟



社会福祉士
あぎの えつこ
荻野 悦子

6階 地域包括ケア病棟



地域連携室 主任
社会福祉士
やしろ ゆうま
矢代 裕麻

地域連携室

主なお問い合わせ内容

- 緊急を要する患者様のご紹介
- 外来受診予約
- 転院のご紹介
- 相談員宛のお問い合わせ
- その他 地域連携室宛のご相談

お電話受付時間

平日（月～金曜日） 9：00～17：00
第1・3・5土曜 9：00～12：00

直通TEL：0274-37-2060

直通FAX：0274-22-2288

Eメール：relation@kusunoki-hp.com

わたしたちが対応いたします



地域連携室 係長
すかわ なみこ
須川 奈美子



地域連携室 看護師
きた ゆき
喜多 由貴



地域連携室 事務
ざわいり さちこ
澤入 幸子



relation@

2023年夏号

2023年8月発行 Vol.4



医療法人社団三思会 くすの木病院 広報委員会
〒375-0024 群馬県藤岡市藤岡607-22
TEL：0274-24-3111（代表）
Homepage：www.kusunoki-hp.com